

議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第1回相談支援部会
開催日時	令和3年4月30日(金)15:00~
開催場所	釧路市役所防災庁舎5階会議室A,B
出席者	<p>出席24名(部会員19名、事務局5名)、欠席3名 (部会員)</p> <p>佐々木部会長(ソーシャルカフェ)、西副部会長(つばさ)、 山本副部会長(KCマヴィ)、平間・橘(あいけあ)、長田(あーかす)、 下山・久保(児童発達支援センター)、千葉・武田・佐々木(サハス)、 高野・葛野(のの)、渡邊(リリーふ)、森山(にじ)、八木沢(結)、 岸(ソラ)、森島(自立センター)、谷口(ハート釧路、議事録担当) (事務局)</p> <p>石川課長補佐、田仲主査、若園主事(障がい福祉課)、 竹内、近藤(基幹相談支援センター) (敬称略)</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶 相談支援副部会長 西 康介 2. 趣旨説明 相談支援副部会長 山本 恵美 3. 議 事 事例発表 <ol style="list-style-type: none"> ① 福祉サービスが定着しない男性の支援について (発表者: 地域支援センターつばさ 西 康介) ② 親子で障がいを抱えている世帯の支援について (発表者: 相談支援事業所KCマヴィ 山本 恵美) ③ 他者との関係性が構築できない女性の支援について (発表者: 基幹相談支援センター 近藤 祥平) 4. 総 括 相談支援部会長 佐々木 寛 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> ① 6/13にWEBにて実施の、社会福祉士会「子どもの未来を考える」研修会について ② 2/21開催の基幹相談支援センターオンライン研修会の結果報告について 6. 閉 会

議 事 内 容

1. 挨拶

釧路市障がい者自立支援協議会 相談支援部会副部長 西 康介

2. 趣旨説明

山本副部長より

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、部会の参集が出来ず、課題の検討や意見交換が出来なかった。相談支援事業所では、相談者からの相談内容が多岐に渡っており、ニーズも複雑化している現状。今回、複雑化している課題に対し、相談支援部会で、それぞれが個々の事例を出し合い、お互いに意見交換等が活発になれば、結果として地域の課題解決に繋がっていくのではないかと役員会で検討し、第1回目の事例発表を行う事となる。

3. 事例発表

1. 福祉サービスが定着しない男性の支援について

○対象者について

- ・年齢：58歳
- ・性別：男性
- ・障がい名：うつ病
- ・家族構成：妻、長男、長女の4人家族で長男・長女は独立。

○本人の強み

- ・性格的にとても真面目。仕事に対しての意識も強く、見学等も熱心に取り組む。

○支援開始当初の課題や本人の希望

- ・課題：感情のコントロールが上手く図れない。対人関係が構築出来ない。
- ・障がい特性：障がいに対する受容が低い。感情のコントロールに波があり、自分の考えと相手の考えに相違があると声を荒げ、冷静に話が出来ない。場合によっては手が出る。
- ・本人の希望：一般就労で仕事がしたい。体力を以前の様に戻したい。
- ・目標：一般就労に復帰する。
- ・課題への解決方法：A型就労を活用し、仕事の定着を図る。最初は短い時間で体を慣らし、徐々に時間と日数を増やしていく。

○支援経過

- ・A型利用を開始。対人関係でトラブルになり退所。その後、B型や自立訓練を経て、再度A型を利用。地図が読めない事(記憶認知)や清掃作業で不十分な所があり、マンツーマンで対応をするも改善が見られず退所。その後、他のA型を利用するが、今度は女性に対しての不適切な行動が多々見られ解雇。それに対して本人は「障がいがない行動」と認識。重要視出来る状態ではなかった。家族としては、家計は苦しいので、何とかA型で頑張りたいと思っている。ただA型も限りがあるので、本人の希望に沿う支援が出来なくなってきている。
- ・本人の希望：妻の収入だけでは家計が苦しいのでB型では厳しい。生活保護についても受けたくない。自分にはまだ早い。

○現在の課題

- ・ 本人の課題：障がいの受容の理解。体力の維持。仕事に関してとても一生懸命だが周囲の声が届かない。
- ・ 支援者の悩み：市内のA型の資源が少ないが、それを開拓出来ない支援員の技術の無さ。本人の理想と思える生活に繋がる事が出来ない。

○部会員からの質疑応答(質問は● 回答は⇒で表記)

●家族は本人の事を捉えているのか

⇒A型は難しいためB型の話をしたが収入面で折り合わない。妻は仕事をしており、本人には「がんばれ」と後押しをしている。

●生活保護については

⇒受けていない。

●うつ病の波はどのくらいのスパンでくるのか。

⇒本人の話では体調不良になると1か月は休むと聞いている。

●うつ病が悪くなって、身体症状が出る。

⇒本人からはそのように聞いている。

●体調不良から就労復帰までどれ位かかるのか

⇒支援者も気持ちが持ち上がるように電話等で話をする事が、翌日には気持ちが落ちてしまう。

●体力面での維持が課題となっているが、病状からか精神的な状況からか。

⇒単純に長い時間働けない。でも本人は4時間は働きたい。体験をしても後半はバテてくる。体験の段階で難しいと事業所からは回答を頂く。

●精神面での課題が大きいのか

⇒そうである。

●日常生活で、調理が出来ない、起床・就床の乱れ、洗濯、整理整頓等で見守りが必要との事だが、生活スキルは元々身につけていなかったのか、元は出来たけど出来なくなったのか。

⇒元は出来ていたが、うつ病発症から出来なくなった。

2. 親子で障がいを抱えている世帯の支援について

○対象者について

- ・ 年齢：33歳
- ・ 性別：女性
- ・ 障がい名：アスペルガー症候群
- ・ 家族構成：子ども(長女、次女、長男)の4人家族。子ども達も障がいを抱えている

○本人の強み

- ・ めげない。曲げない。明るい。強さがある。

○支援開始当初の課題や本人の希望

- ・ 課題：母親の療育が難しい。家庭環境が劣悪(ゴミ屋敷状態)。課題の精査が出来ない
- ・ 障がい特性：自分はアスペルガーであると理解し、出来ない事がいっぱいあると話されるが、実際、困り感として感じていなく生活への工夫もない。干渉される事への拒否感が強い。
- ・ 本人の希望：子どもと一緒に過ごしたい。
- ・ 目標：家の掃除を行う。
- ・ 課題への解決方法：ヘルパーを介入して家庭環境を改善する。

○支援経過

・当初は長男への支援を行う予定。ただ、子ども達が児童相談所に保護。児童相談所から母親への支援を組み立て欲しいと依頼。急遽、母親への支援に切り替わる。家庭環境が劣悪。母親にヘルパーの利用を提案。使っても良いという認識。でも本当は嫌で、あくまでも子ども達が帰ってくる条件でヘルパーに繋がった。子ども達が戻ってくるとヘルパーをキャンセルする事が増え、コロナの影響もあってか、キャンセルがどんどん加速、最終的に月1回利用にしろうじて繋がるも、キャンセルが多い事からヘルパー提供を断られる。ただ、幸いな事に訪問看護が週1回入った為、家の状況や服薬の状態は見てもらっている。母親に於いては元々家庭環境が良くなかった。いじめの対象となり、学校を辞めて、家を飛び出す事もあった。

○現在の課題

- ・本人の課題：ネグレクト状態になっている。子育ての緊急度が高い。
- ・支援者の悩み：母親も障がいがあって、子どもも障がいがあり、父親もいるが頼れない。支援に関して提案しても本人は望んでいない。子ども達も親次第で巻き込まれてしまう。同じようなケースで悩む支援者がいれば意見が欲しい。子ども達は放課後等デイサービスに繋がったが、長女と次女は利用の定着に繋がっていない。

○部会員からの質疑応答(質問は● 回答は⇒で表記)

●福祉サービスの必要性について、実際、母親はどう思っているのか。支援者としてどう評価しているのか。

⇒話をあわせている所はある。ヘルパーの利用は条件をのまない子供たちが家庭復帰させてもらえないから仕方ないと思っている。要対協で検討しても改善出来ない場合の対応について検討したが、児童相談所の考えもあり、そのまま進んでしまった。

●理解力はどのくらいか。確実に母親が理解出来る情報手段は何か。子ども達が学校に行かない事にどうアプローチをしているか。

⇒ヘルパーの利用については、口頭での説明はわかりづらいので視覚的に分かる様に紙に書いて説明。最初はスムーズに受け入れられた。徐々にキャンセルが増えたので話を聞くと物を動かされる事を嫌だったと話されている。言葉だけでは難しいので一つずつ、紙に書いて説明した方が分かりやすい。ただ困り感に気が付いていない様子がある。母親のIQは分からない。理解力は高くはないが、子どもたちの一日のタイムスケジュールを細かく作る事は得意。それを守ろうとするも出来ない。

●子どもの一時保護後はどうなっているか、児童相談所の介入頻度はどれ位なのか。

⇒一時保護の時、警察を呼んだり道に訴えたりして大変だった。子ども達が保護解除した後も定期的に訪問をする予定だったが、コロナが原因で訪問が出来ず、母親も児童相談所に嫌悪感があり、子ども達にも「片付けをしないから連れていかれたんだ」と話をしている。長男が児童相談所の職員に「叩かれた」と言い、母親が警察に訴える事態になり、児童相談所も上手く関わっていない。家庭環境は変わらない。母は、子どもを人形のように扱う所もある。

●母親が今、一番信頼している人は

⇒生活保護のCWや弁護士に相談をしていた経緯があり、母親が信頼できる人は弁護士かもしれない。

3. 他者と関係性が構築できない女性の支援について

○対象者について

- ・年齢：47歳
- ・性別：女性
- ・障がい名：自閉症スペクトラム、ADHD
- ・家族構成：長男、長女、次女の4人家族。子ども達はそれぞれ独立。長男は家庭も持ち。長女と次女がたまに家に帰ってくる。

○本人の強み

- ・とても真面目である。生活保護を受けても楽はしたくない。

○支援開始当初の課題や本人の希望

- ・課題：対人コミュニケーションが図れない。精神的な自立と経済的な自立
- ・障がい特性：人の顔や色の認識が難しい(相貌失認の診断)。仕事に関して、見通しが無いとどうしていいかわからない。周りの声に敏感。干渉される事を嫌がる。後ろからの声掛けには気づかない。
- ・本人の希望：人と関われる様になりたい。生活を安定させたい
- ・目標：他者との関わりを少しずつ増やしていく。
- ・課題への解決方法：経済的な自立と対人コミュニケーションを図る為、福祉サービスを活用してみる。

○支援経過

- ・保健所から当センターに相談。主訴としては、主治医からA型就労を利用して社会との接点を持った方が良いと言われたとの事。ただ、本人から一般就労をしたいという希望があり、福祉就労には拒否的。対人関係については、とにかく知らない人と会うのが緊張する。また相貌失認という障がいがある余計に人と関わるのが怖いとの事。まずは人と関わる事に慣れていく事が必要ではないかとの事で、基幹センターで面談を継続。その間に本人は一般就労をするも長くは続かず、徐々に他人と関わる事も無くなり外に出る機会も減少。関わり始めて2年が経過、ようやく福祉就労に行く事に同意。併せて、新たな支援者(相談支援事業所)の介入にも同意を得るとA型事業所に繋がる。最初は良かったが、対人関係で「周囲がうるさい」「一人になりたい」と言い始め、本人には「この就労は働くだけでなく、他者と関わる機会を持つ事も目標では」とアドバイスするも徐々に通所回数が減少。最終的に週1回行ければ良い状態になる。また、手根管症候群となり、医師の指示で現在は休職中。今は怪我の治療をしながら、今後の生活を模索。
- ・本人の希望：働きたいけどどうにもならない。周囲の環境が嫌。

○現在の課題

- ・本人の課題：「自分は障がいがあるから何も出来ない」と自己肯定感が低い。困り感を相談出来ない。課題の整理が出来ず、すぐにパニックになる。
- ・支援者の悩み：関係者がなかなか増やせない。計画相談支援事業所には基本相談のみ関わってもらえている状況。次女に関して共依存関係がある。(ますます他者と関わる機会が減る)

○部会員からの質疑応答(質問は● 回答は⇒で表記)

●本人の一番の困り事は

⇒自分からSOSが出せない。自分から相談できない。(人に伝えることが難しい)

●対人関係に於いてのエピソードについて知りたい。

⇒一般就労(酒屋)で働いていた時に最初は注文を受けて伝える仕事だけを担当。1年程は上手く出来ていたが、徐々に求められる仕事が増え、発注のミスや電話対応が出来ず、会社から厳しく叱責を受けた。自分の障がいについても話はしていたが、徐々に人と話すことが怖くなり、人と関わる機会が減っていった。

4. 総括

・佐々木部会長より

相談の1番の根底にあるのはアセスメントにある。見立てが全ての最初となる。見立てる力が相談の基本。見立てながらやれる事は何かを積み上げていく。また、ストレングスから見立てる事も良かった。ご本人にとってやれる事はなにか。持続的な自信を持てる事。ストレングスの観点から見立てるのは相談員の基本。精神の観点で、共依存はかならずしも悪い事だけでは無い。サポータティブに考え、マイナスもありながら一緒に関わる事も必要である。相談は評価を受ける側で、大変だがやっていくしかない。事例を出す事は大変だが、事例を出し合っ部会で共有する事も大切である。最後にアセスメントはシートに落とす内容だけがアセスメントでは無い。

5. その他

○基幹相談支援センターオンライン研修について

・2/21に開催したオンラインでの研修会について、243名の申し込みと再生回数は239回だった。アンケートでは「わかりやすかった」「好きな時間に受けられる」との評価を頂いた。

6. 閉会

※今後の部会について

・今回はケースの概要と課題について発表をして頂いた。7月予定の相談支援部会では、今回出た課題への対応についてグループワークで検討を行う。

以上